

17 タイル下地モルタルひび割れ補修(低圧自動注入工法)

タイル表面からのひび割れが躯体に達し、ひび割れ幅0.5mm以上の補修

施工手順

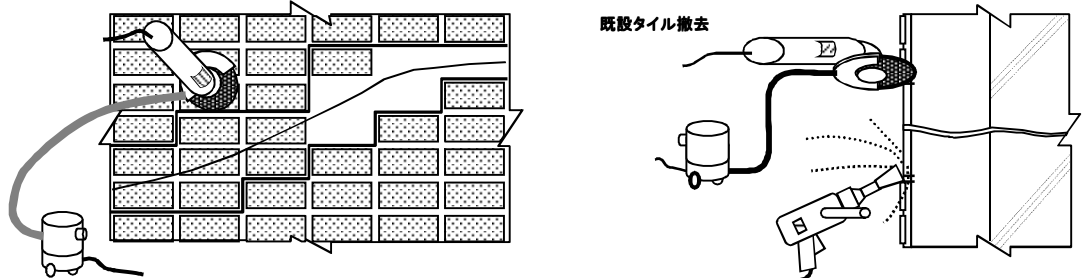
施工方法

補修範囲の確認

- ・ひび割れ部分を打診しながら劣化範囲を確認してクラックスケールで検出し、ひび割れに沿ってマーキングし補修範囲を確定する。
(復旧タイルの在庫確認及び張替部分の色変わりについて監督官の確認し、指示に従い作業を開始する。)

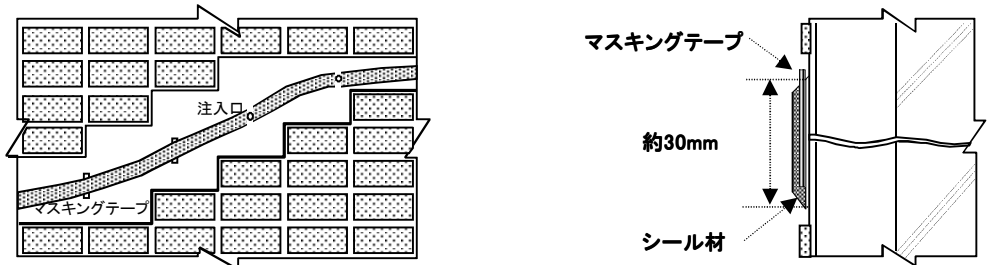
張替部分のタイル撤去

- ・ひび割れ部分のタイルは健全部分との縁をダイヤモンドカッターで切込み、チッパーで研り落とす。撤去作業は健全部タイルを傷つけない様にし、ひび割れを露出させ表面の粉塵を除去する。



ひび割れ表面のシール

- ・注入口の位置を割付テープを被覆し、ひび割れ部分を中心にシール材を、幅約30mm、厚さ2mm程度を完全にシールする。シール完了時にテープを除去し注入穴の開口状況を確認する。シール材は、規定配合比に計量後、均一に混合し可使時間内に使用する。



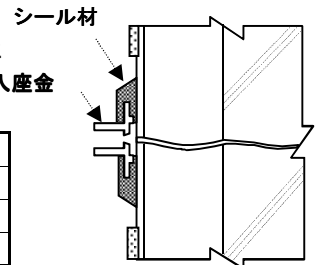
注入孔座金取付け

- ・注入口の真上に注入孔座金をシール材で貼り付ける。この特、注入穴を塞がない様に取付け、シール材が硬化するまで養生を行う。(夏季半日、冬季1日)

注材の選択計量混合

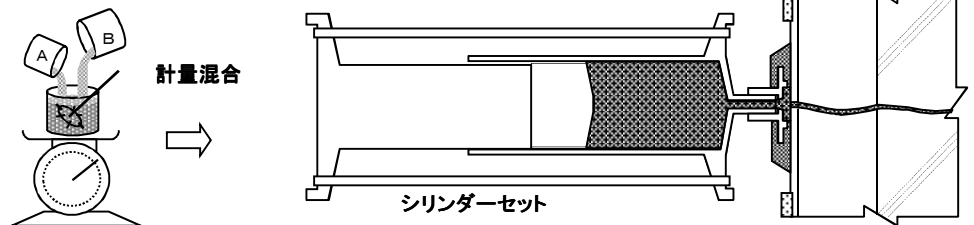
- ・注入材は規定の配合比に計量後、均一に混合し可使時間内に使用可能量を調合する。

粘性	注入材名	配合比	適用ひび割れ	適合性
超低粘度	ボンドE205	主剤3:硬化剤1	0.2~0.5mm	適合外
低粘度	ボンドE206	主剤2:硬化剤1	0.5~1mm	注入材JIS適合
中粘度	ボンドE207D	主剤2:硬化剤1	1mm以上	注入材JIS適合



注 入

- ・混合した注入材をシリンダー注入器へ吸引充填した後シリンダーを注入孔座金へ接続し、加圧ゴムを掛けて圧入を開始する。
- ・注入は、シリンダー内の注入材が硬化するまで圧入を継続する。



座金、シール剤除去

タイル復旧張り付け

- ・下地表面を清掃後、タイル貼付け接着材を櫛目コテで均一に塗布後、割付ラインに沿ってタイル陶辺を揉込むようにして圧着張りする。
- ・塗布量: 1.5~2.0kg/m²

用途別適応性	製品名	混合比
広範囲張付け用(2成分系)	ボンドEMS20	主剤1:硬化剤1
部分張付け用(1成分系)	エフレックススタイルワン	1液型

目地入れ仕上げ

- ・タイル張り付け接着材の硬化後、目地セメントペーストをゴムコテで目地入れしコテで平滑に仕上げた後にタイル表面拭きを行い仕上る。